

全世界の賞を独占・映画史上最大の栄誉に輝く傑作！

「アラビアのロレンス」のスタッフが総力を結集した史上空前の大作

シネラマ

超ステレオ音響/スーパーシネラマ方式

■テクニカラー■



◀アカデミー賞▶ <1957>7部門
<作品賞><監督賞><主演男優賞>
<撮影賞><脚本賞><作曲賞><編集賞>

人間の名誉と誇りを賭けた
壮烈な男の戦い！
今ひびくクワイ河マーチにのびて
大画面に甦える！

橋がけの戦場

コロムビア映画

ウィリアム・ホールデン
アレック・ギネス
ジャック・ホーキンス
ジョフリイ・ホーン
早川雪州



監督 デビッド・リーン
製作 サム・スピーゲル
音楽 マルカム・アーノルド

THE BRIDGE ON THE RIVER KWAI

★次回大公開！ 全階指定席 入替え制

東京で唯一のスーパーシネラマシアター(大阪はOS劇場)
銀座 562
1丁目 テアトル東京 5301



THE BRIDGE
ON
THE RIVER
KWAJ

戦場には橋

スタッフ

製作……………サム・スピーゲル
監督……………デビッド・リーン
原作・脚本……………ピエール・ブール
撮影……………ジャック・ヒルデヤード
音楽……………マルカム・アーノルド

キャスト

シャーズ……………ウィリアム・ホールデン
ニコルス中佐……………アレック・ギネス
ウォーデン少佐……………ジャック・ホーキンス
斉藤大佐……………早川雪洲
クリプトン少佐……………ジェームズ・ドナルド

☆かいせつ

第二次大戦下のタイ・ビルマ国境。日本軍が米、英両国の捕虜を使って建設した鉄道線路と大橋梁をめぐり、三国將兵それぞれのすさまじい闘争を描いた70ミリ超大作。

破壊的な戦争のなかで行われる建設への意思と戦火のもとにいつさいに無にしてしまう戦争の狂気を強く訴えた問題作である。

製作の大規模な点でも画期的で、六か月もの長期ロケをセイロンに行い、映画の中で重要な役割をしめる大橋梁を実際に建設した。

この橋はハリウッドがつくったオープン・セットのうちでも最大のもの。この橋に本物の車を走らせ、爆破するというぜいたくなアクションを展開する。そのスケールと迫力はまだこれを越えるものがないほどである。

主演は「クリスマス・キャロル」のアレック・ギネス。英軍捕虜隊長のニコルス中佐に扮し、橋の建設を指揮する。「夕陽の挽歌」のウィリアム・ホールデンが収容所を脱出する水兵を演じ、「ニコライとアレクサンドラ」のジャック・ホーキンスとともに鉄道爆破に向かう。日本の名優、早川雪洲が捕虜収容所長、斉藤大佐として登場する。

製作はサム・スピーゲル。三本ものアカデミー賞作品をおくりだし、映画界の良心ともいわれる巨匠。「アラビアのロレンス」「ライオンの娘」など不朽の名作を演出してきたデビッド・リーンが監督を担当。「さすらいの旅路」のマルカム・アーノルドが音楽を担当している。主題歌の「ボギー大佐」をアレンジした「クワイ河マーチ」はすでにひろく知られたスタンダード・ナンバーになっている。

「戦場にかかる橋」は五七年度のアカデミー賞を七部門（作品・主演男優・監督・撮影・脚本・音楽・編集）も獲得しており、世界の主要なものを含めると三四もの映画賞を受賞している。年数を経ても決して古くならない、映画史上最高の作品として評価されている。 [上映時間 2時間42分]

★ロンドン・デイリー・エクスプレス紙

私が今まで見たことのない程、立派な迫力のある映画だ。私はクワイ河の橋の生死を物語るこの映画を一生忘れることは出来ないだろう。

★ロンドン・デイリー・メール紙

この素晴らしい映画に敬意を表す。人を感動させずにはおかぬドラマで、戦争の無益を告発する映画である。

★ロンドン・デイリー・ミラー紙

偉大！偉大！偉大！ 今までに見たことのない最も偉大な作品であり、世界最高の映画としてすべての賞を与える価値がある。

★ストーリー

第二次大戦下の一九四三年。ビルマ国境の日本軍捕虜収容所では捕虜を使ってタイ、ビルマ間の鉄道を建設していた。

収容所の近くに大きな谷にはさまれたクワイ河が流れている。そこに大橋梁をかけよという命令が収容所長の斉藤大佐（早川雪洲）に下されていた。

そこに新しい英軍捕虜の一隊が到着した。斉藤大佐はさっそく翌日から現場で働くことを命じた。将校まですべて労役に服せよという命令に捕虜隊長のニコルス中佐（アレック・ギネス）はジュネーブ協定違反と申し立てたが、斉藤は一言でこれを拒否したのだった。

日数は限られており、労働力はまったく不足していた。ニコルスはついに営倉入りを命じられてしまった。

工事は全然すすまなかった。斉藤はそれを捕虜のサボタージュとみた。このうへは傷病捕虜までかり出さねばならない。

この間にシャーズ（ウィリアム・ホールデン）という米海軍少佐が脱走しており、斉藤のあせりは深まるばかりだった。

そして、さらに悪いことに、橋梁設計の不備が明らかになったことだ。五月十二日の完成日まで二か月しかない。ついに三月十日の陸軍記念日に将校捕虜の赦免を斉藤は宣告した。ニコルスは建設に協力することを承諾した。

設計と指揮を英軍将校が行うことになった。

この頃、脱走したシャーズはコロンボで英軍のウォーデン少佐（ジャック・ホーキンス）から鉄道と橋梁の爆破に同行を求められていた。五月十三日に日本軍の要人を乗せた列車が橋を通過するという情報をつかんでいたのだ。

一行は強行軍のすえ、ようやく現場にたどりついた。そこには見事な大橋梁が完成されていた。

五月十三日。列車通過の時間が迫ってきた。橋脚にはすでに爆薬がつけられている。ニコルスがそれを発見。同時に日本軍との間で銃撃戦はじまった。そして全員が銃弾のもとに倒れていった。

つづいて、大音響とともに橋がふっ飛び、列車は河中に崩れ落ちていった。彼らが血と汗でなしとげようとしたものは何だったのだろう。ジャングルは再びもとの静寂に返り、クワイの水は無心に流れて行くのだった。